

宇佐市民図書館

2003.01

郷土スペース月報

〒879-0453 大分県宇佐市上田1017-1 TEL.0978-33-4600 FAX.0978-33-4679
http://www.usa-public-library.jp/

ごようぼくくもえもん 御用木雲右衛門

昭和の大横綱・双葉山より100年も前に、全国に名前を知られた宇佐出身の力士がいた。その力士の名は、御用木雲右衛門(1807~1867・下乙女村生まれ)。身長6尺2寸(約186cm)、体重32貫(128kg)の立派な体格が、西国郡代・塩谷大四郎の目にとまり、力士となる。初め大阪へ行き、その後江戸で玉垣岳之助の弟子になる。やがて三役まで上り「天下無双の大力士」という名声を得た。

天保12年(1841)12代将軍徳川家慶の上覧相撲では、大関・不知火諾右衛門との一番があり、御用木が勝って江戸中を沸かせた。安政3年(1856)、中津の龍王浜での相撲興行の小結で出場した番付表が残っている。翌年、地元・乙女で最後の相撲を取り、引退。浮世絵師・豊国が、二本差しで腕組みをした絶頂期の御用木の風貌を描いた錦絵が、今も残っている。

宇佐百景「あいうえおいで!」

(2002.4)より



- 目次
- ◆ 今月の表紙・御用木雲右衛門の錦絵
 - ◆ 御用木雲右衛門／宇佐百景「あいうえおいで!」より
 - ◆ 龍膽・小野精一編「大分県人名辞典」本文編(8)
 - ◆ 新着郷土資料目録・平成十四(二〇〇二)年【12月】

4 2 1 1

今月の表紙 豊国画。御用木雲右衛門の錦絵。
個人蔵。当館への寄託資料。御用木は宇佐(乙女)出身の江戸時代の力士で、本名、中島氏。乙女川(如意ヶ嶽)四明ヶ嶽(御用木と、しこなを変えた。最高位、関脇。

龍膽・小野精一編 大分県人名辞典 本文編(8)

遺族から宇佐市に寄託された自筆原稿より、本文を順次紹介しています。
収録人名一覧は、No.7(2000.10)~No.14(2002.5)に記載しました。

あな

あなみ・これちか 阿南惟幾

(一八八七~一九四五)

陸相。明治二十年生る。父は直入郡玉来町阿南尚、検事として熊本、徳島等転勤。仍て氏は徳島中学卒業。陸士を卒業後、次で陸大を卒業、累進して、昭和八年、陸軍幼年学校長、昭和十二年、陸軍省人事局長に補せられ、翌十三年、陸軍中将に陞り、次で陸軍次官となり、支那事変に武勲を建て、陸軍大臣となる。
(大典)

あなみしのむすめ 阿南氏女

(生没年不詳)

天正の役、大友の将、阿南但馬守

鎮長、遽かに高雄の嶮に城きて、之に連る。島津の軍は来襲しぬ。鎮長、之と三度戦い、三度敗る。寄手、城を攻むること益々鋭ければ、城兵死傷算なし。鎮長、刀削を蒙ること十数ヶ所。支うるに耐えず、退き帰りぬ。鎮長に女あり。時に十七歳。斯の有様を見て嘆息して云う様、「哀しやな父君、奮戦苦闘、刀折れ、矢尽きて、將に死に瀕し給う。妾もと菲弱なる一少女なりと雖も、家武門に出づ。如かず寇敵を撃ち、国の為めに殉じ、父に従つて冥土に赴かんには」と。則ち甲を擽し、兵を執りて、出て向う。敵兵嘲笑して曰く、「こは万緑中の紅一点、將に生擒して吾が將に献せん」と。皆蟻集し来る。女、薙刀を揮うて奮闘し、忽ち数十人を斬り、遂に城楼に登り刃を含み、逆に墜ちて死せり。げに壮烈無比といふべきなり。

あなみ・せいべえ 阿南清兵衛

義民。速見郡八坂村の人。元禄四年秋、甚不作。然も運上高く村民流浪するもの多い。慈悲で義侠な清兵衛惟雪後の祟りも頓着せず、租税免除を願い出た時、藩主俊長公は江戸参勤中であつたが、名主や郡代を呼び寄せ、子細を吟味したので、郡代は切腹し、名主も牢舎に入れられた。然し、清兵衛惟雪も徳野ヶ原に所払いに処せられたので、哀れな暮らし、まして病の床につき医者も薬もままならず、誠こもった妻子の看病も甲斐なくなつたので、「我亡骸は大儀寺に葬れ」と遺言して歿したが、元禄八年二月十七日に当る。後の村人が此義民の徳を忘れず、盆踊りの阿南口説きとして、今に其美名を謳っている。
(杵築史)

あなみ・ひさし 阿南尚

直入郡玉来の人。二十二歳、岡藩武具調方となり、明治十年、福岡県警部。十七年、警視庁警部。二十一年、大坂地方裁判所検事。二十八年、徳島県警察部長。三十六年、石川県書記官。四十三年、致仕し、大正九年歿す。歌を善くす。
(大塚氏調)

あなみ・まさしげ 阿南正茂

明治二十五年、直入郡野尻収三郎二男に生れ、阿南家を冒す。七高を経て、大正六年、東大法科卒業。湯浅貿易、浅野物産、飯田貿易部に歴勤し、大正十二年、直輸入阿南商会を創業し、同時に日本ポリドールレコード商会を起した。
(名士言行録)

あべいつう 阿部一行

坂ノ市の人。名有太郎。一行と号す。年十五、空桑に学び、傍ら武道を修む。文久元年、熊本に遊び、木下真太郎に従学三年。更に、熊本藩医、山室宗仙に学ぶ。後、熊本那波範義の塾第二講座を担当す。明治元年、京撰に遊び、同二年帰り、坂の市に私塾を開き、培根舎と号す。爾来、三十余年、子弟教導に当り、明治三十七年歿す。遺墨多し。
(大塚)

あべ・かしち 阿部嘉七

熊本の人。昭和五年、警視庁から本県第二十七代目知事に来任したが、僅在職は一年で休職になった。

あべ・かつま 阿部勝馬

医博。西馬城字熊村の人。明治十七年生れ。真に苦学力行の士で辛酸苦楚を嘗め尽し、漸く開業試験に及第し、或は支那に病院勤務をなし、帰国して佐田で開業し、台湾に羽翼を伸して公医となり、やがて辞令の人となり、衛生保長、細菌検査所主任となり、匙を投じ、学術方面に奉公することになり、紆余曲折を極め業務精進の結果、細菌学上大に発見する所があり、何ら母校や旧師の庇護恩恵なく、独学勇往学研学の

あべ・さだつぐ 安倍貞次

結果、型破りの学位請求論文が熊本医大を無事パスして、栄誉を贏した。其間にも一族安部明義君をし、士学位までとらしたという。其他郷党を賑わした罕に見る篤学篤行の士であり、同氏論文主題は、
硫化水素非産生性チフス菌
に関する研究
に参考論文八項を掲げている。

あべ・さだのり 安倍貞則

通称陽三郎。後、繁右衛門と改む。中津丸山氏につき、文学騎法を学ぶ。長田氏に従い、散菓を学び、又点茶煎茶、和歌に嫺う。日出侯の貸貨の命に応じ、賞賜され、高松侯、君の性行の醇謹を愛し、餞及盃を賜い、謁見を許さる。万延元年卒。享年六十三。四男子皆毛利空桑の門人であった。
(毛利侯氏文)

新着郷土資料目録 平成14(2002)年【12月】

書名／人名／出版社／出版年(月)／請求記号／(備考)

子ども文庫・読み聞かせグループ交流会名簿／大分県立図書館／2002.12／A019オ／(寄贈)

臼杵市読書感想文コンクール入選作品集 平成14年度

／臼杵市立臼杵図書館／2002.12／A049オ／(寄贈)

夕方なしかの本4／夕方なしかの本制作委員会／大分放送／2002.12／A049オ／(購入)

古代諸国神社神階制の研究／岡田荘司／岩田書院／2002／A175オ／(購入)

大仏開眼と宇佐八幡／清輔道生／彩流社／2002／A180キ／(購入)

おはなし歴史風土記44 大分県／歴史教育者協議会／岩崎書店／1986／A201レ／(寄贈・複本)

古代朝鮮文化を考える 第17号

／大分県の中の古代朝鮮文化を考える会／2002.12／A203オ／(寄贈)

ふるさとの歴史散歩／宇佐市立豊川小学校PTA研修部／2002／A2147／(寄贈)

伊能中図 大日本沿海実測図／日本国際地図学会／武揚堂／1993.01／A290.34／(保管転換)

福澤諭吉書簡集 第8巻／岩波書店／2002／A3097／(購入)

福澤諭吉著作集 第4巻／慶応義塾大学出版会／2002／A3097／(購入)

少年非行の概況／大分県警察本部／2001.3／A369.1オ／(寄贈)

大分県学校要覧 平成14年度／大分県教育委員会／2002.12／A370.5オ／(寄贈)

大分のむかし話／大分県小学校教育研究会国語部会／日本標準／1975／A388オ／(保管転換・複本)

日本航空機大図鑑(上)／小川利彦／国書刊行会／1993／A538.6オ／(購入)

日本航空機大図鑑(中)／小川利彦／国書刊行会／1993／A538.6オ／(購入)

日本航空機大図鑑(下)／小川利彦／国書刊行会／1993／A538.6オ／(購入)

日本航空機大図鑑(解説・索引)／小川利彦／国書刊行会／1993／A538.6オ／(購入)

桂声 市民句集(12号)／豊後高田市俳句連合「桂声サークル」／2002.12／A911.37'／(寄贈)

どろんこサブウ 谷津干潟を守る戦い／松下竜一／講談社／1990.5／A913マ／(寄贈・複本)

天使／横光利一／創樹社／1947.04／A913Y47／(寄贈)